

1 単元名 道後をもっと味わおう～道後をもっと輝かせよう

2 単元の目標

- ・ 道後の町の魅力や自分とのつながり、そこに携わる人々の思いや願いを理解し、よりよい町づくりのために自分にできることが分かる。 (知識及び技能)
- ・ 道後の魅力を知ったりよりよい町づくりをしたりするために必要な情報を効果的に収集、蓄積し、分かったことや自分の思いを相手や目的に応じて工夫してまとめたり表現したりする。 (思考力・判断力・表現力等)
- ・ たくさんの人とかかわりながら道後の町への愛着を深め、よりよい町づくりのために地域の一員として進んで携わっていかうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 児童観

本学級の子どもは、1学期に「持田・道後ってどんな町？」の学習を行った。最高学年となった今、約6年間慣れ親しんだ地域、持田や道後の町について、改めてどんな町か考えてみた。多くの子どもたちの持つイメージは、「とても明るく素敵な町」であること。しかし、よくわからないこと、疑問に思ったこと、あまり良くないところもあるのでは、という意見も出てきた。そこで、実際に自分の目で見て、耳で聞いて町の様子を検証してみたところ、「にぎやかで、きれいな町」であることを確かめることができた。しかし、その学習を振り返り、ゲストティーチャーである道後商店街の方と話をする中で、自分たちは道後の近くで学校生活を送っており、町のことをよく知っているつもりでも、道後温泉に入ったことがない、あまり訪れたことがないなど、道後の町とかかわる経験がまだまだ少ないことにも気付いた。そのため、もっと道後を味わい、身近な地域のよさを知りたい、魅力に触れたいという思いが高まっている。

(2) 教材観

前単元の学習で生まれた課題を基にして、地域のよさや自分と地域とのつながり、そこに携わる人々の思いや願いに気付き、よりよい町づくりのために自分にできることを考え実践しようとする子どもの姿を目指して本単元を設定した。

道後の町とかかわる経験がまだ少ないことが課題であると感じている子どもたちに、じっくりと道後の町を味わう時間を設定することは、地域の魅力を十分に感じ、愛着を一層深めるために効果的であると考え。また、その体験を通して地域とのつながりを感じたり、人々の思いにも触れたりして、地域ともっとかかわりたい、地域の役に立ちたいという思いも生まれるであろう。そして、自分が地域のためにできることを考えていくなかで情報収集をしたり、得た情報を整理し、まとめ、表現したりすることを通して、課題解決に必要な知識・技能を身に付けさせるだけでなく、探究的な学習のよさにも気付かせることができると考え

る。また、実際に地域に出て自分にできることを実践することを通して、学びをこれからの地域づくりや自己の生き方に生かそうとする態度も育てることができるだろう。

(3) 指導観

単元の指導にあたっては、まず「道後をもっと味わう」という課題を明確にし、そのためには何が必要か、何をすべきか見通しをもって探究活動ができるようにする。そして、自分の“味わいたい道後”について選択し、限られた時間、予算の中で十分に体験するための情報を収集していく。温泉や歴史、食べ物やグッズなど一人一人が思いを持った選択をできるようにするとともに、グループで集めた情報を持ち寄って協働的に計画を立てられるようにする。その後、実際に道後の町に出向き、いろいろな「道後を味わう」場を設定する。自由にじっくりと散策することで、非日常を感じながら町の魅力を改めて知るだけでなく、人とのかかわりを通してその優しさや、町づくりへの思い、努力にも気付かせたい。

さらに、地域や人とのかかわりを通して生まれた子どもの思いや疑問から、自分たちが地域のためにできることは何かという新たな課題を設定する。ゲストティーチャーとの対話を重ねながら、自分たちにできることを一緒に考えていくことで、地域や人とのつながりを強めていく。また、道後の方の「おもてなし」の心を知り、自分たちにできる「おもてなし」を考え実践していく過程で、自ら課題を解決していく探究的な学習のよさにも気付かせたい。単元の終末には、観光客に道後の歴史や現状を伝えたり、町の魅力を共有したりする活動を設定する。よりよい町づくりのために地域に参画し、役立った効力感を味わうことで自信を持ち、これからも地域の一員として、地域や人とのつながりを大切にして生きていこう、進んで地域に参画して自分にできることを考えていこうとする気持ちを高めることができるだろう。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・ 相互性…町のよさを一層知るとともに、自分たちの生活と地域とのつながりに気付くこと。
- ・ 連携性…たくさんの人たちが連携し合い、豊かな町、魅力ある町づくりに長年取り組んでいること。また自分たちもそれに参画していくことが大切であること。

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・ つながりを尊重する態度
探究的な学習を通して他者とのつながり、相手を尊重しながら活動する。また、自分と地域とのつながりに気付き、地域への愛着を持ったり、自分にできることを考え実践しようとしたりする。
- ・ 進んで参加する態度
自分が地域の一員であることを自覚し、地域のよさやすばらしさ、人の思いなどを理解しようとする。

・ 本学習で変容を促すE S Dの価値観

世代間の公正

先人や現代の人たちの苦労や努力によって伝統文化が守られてきたことを理解するとともに、これから自分たちも伝えていかななくてはならない。

人権・文化を尊重する

地域に受け継がれている様々な伝統や文化を尊重することが大切である。

・ 達成が期待されるSDG s

1 1 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 道後の町の魅力や自分とのつながり、そこに携わる人々の思いや願いを理解する。</p> <p>② よりよい町づくりのために自分にできることが分かる。</p>	<p>①対話やグループ活動で、道後の魅力を知ったりよりよい町づくりをしたりする方法をいろいろな視点から考えている。</p> <p>②探究活動を通して必要な情報を効果的に収集、蓄積し、分かったことや自分の思いを相手や目的に応じて工夫してまとめたり表現したりしている。</p> <p>③地域に自ら出向き、地域について観光客に伝える活動を通して、学びの成果を具体的に実感している。</p>	<p>①たくさんの人とかかわりながら道後の町への愛着を深め、よりよい町づくりのために地域の一員として進んで携わっていこうとする。</p> <p>②自己評価や相互評価、ゲストティーチャー等による他者評価により、協働的な学習のよさや自己の学び、成長に気付いている。</p> <p>③本単元で学んだことを今後の生活や学習でどう生かしていくか考え、自己の生き方を見詰めている。</p>

5 単元の指導計画（全25時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	<p>【小单元①】道後をもっと味わおう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1学期の学習を振り返り、課題を確かめる。 ・道後をもっと味わいたい。 ・道後のことをもっと知りたい。 ○ 「道後を味わう」ための計画を立てる。 ・温泉に入ってみたいな。 ・いろいろな銘菓を食べてみよう。 ○ 自由に道後を散策し味わう。 ・道後温泉は歴史を感じた。 ・アートも融合していて楽しめる町だ。 ○ 学習を振り返る。 ・やっぱり道後は飽きない町だ。 ・人の優しさが心に残った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの思いから探究したいと思える課題を設定できるようにするため、前時までの振り返り等を生かす。 ○ 温泉や歴史、食べ物など一人一人が思いを持った選択をできるようにするとともに、グループで協働的に計画を立てられるようにする。 ○ じっくりと散策する場を設定し、町の魅力だけでなく、人の優しさや、町づくりへの思い、努力にも気付かせる。 ○ 学習を振り返り、学びの成果や新たな課題について考えさせる。 	<p>イ①② (思・判・表)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
2	<p>【小单元②】道後をもっと輝かせよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな課題を設定し、学習の見通しを持つ。 ・商店街の方が優しくしてくれたことが心に残っている。 ・何かお返しをしたい。 ○ 自分たちにできる「お返し」を考える。 ・地域の役に立つことは何だろうか。 ・お手伝いやおもてなしがしたいな。 ・観光客に「道後の今」を伝えることに価値があるんだな。 ○ 「道後の今ー道後温泉改修工事ストーリー」を伝えるための情報を収集し、まとめる。 ・経緯や秘密を調べよう。 ・地域の人の思いも込められているんだな。 ○ 観光客に「道後の今ー道後温泉改修工事ストーリー」を伝える。 ・今しかない道後を知ってもらおう。 ・道後って改めて素敵な町だな。 ○ 学習を振り返り、新たな課題を確かめる。 ・観光客と道後の魅力を共有できた。 ・しっかり伝わったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のために、自分たちに何ができるのか、地域にとって必要とされていることは何かなど、様々な面から探究の方向性を検討することができるよう、これまでの学習を見詰め直す時間を設ける。 ○ 専門的な立場からの意見を聞いたり、取組に共感したりしながら、協働的に、また自分事として探究に取り組むことができるようにするため、ゲストティーチャーとのかかわりを設定する。 ○ タブレット端末を用いて調べたり、ゲストティーチャーから話を聞いたりしながら効果的に情報の収集や整理・分析が行えるようにする。 ○ 道後へ行って観光客に伝える活動を行い、自分たちで「道後の今」を伝えることができたという成果を味わわせる。 ○ よりよい町づくりのために自分にできることを考えられるように、ゲストティーチャーや観光客からの他者評価を返す。 	<p>ア② (知・技)</p> <p>イ① (思・判・表)</p> <p>ウ① (思・判・表)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>イ② (思・判・表)</p> <p>イ③ (思・判・表)</p> <p>ア② (知・技)</p> <p>ウ①②③ (主体的)</p>

6 成果と課題

本単元での学習を通して、子どもたちにどのような力が身に付いたのか、またどのような変容が見られたのかを、先述した「ESDとの関連」に即して考察する。

・本学習で働かせるESDの視点（相互性、連携性）

「道後」という地域をフィールドに、伝統文化について調べる活動、実際に見たり触れたりする活動、地域の魅力を五感で味わう活動を行うなど繰り返し地域とかかわる場を設定したことにより、子どもたちは町のよさを一層知り、自分たちにとってかけがえない大切なものであるという思いが生まれた。また、その町をつかっていくために自分たちにもできることがあると気付いたり、よりよい町にしたいという思いが高まったりした。

① 今までは道後は時々行く観光地だと思っていたけれど、この学習を通して道後は身近なもので、自分にもできることはたくさんあるという考え方がありました。

② 学習を通して、道後を大切にしたい・すごく好きで好きな町なんだという気持ちになりました。それに、道後をよりよくしたいという気持ちが前よりもっと強くなりました。

③ この活動をする前は、道後に自分が住んでいるというような意識がなかったけれど、今回の活動を通して「たくさん思い出が詰まった自分のふるさと」という意識が変わりました。たくさんの人に道後を知ってほしいな、と思えるようになりました。

④ 道後を大切にしようと思えました。そして自分の地域についてよく知れたし興味を持ちました。この単元が終わっても道後に行きたくないし、道後のことを知りたくなりました。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力（つながりを尊重する態度、進んで参加する態度）

地域とのつながりだけでなく、本単元では人とのつながりも大切にしました。一つはゲストティーチャーとのつながりである。商店街振興組合の方や旅館組合の方などに、道後の魅力を聞いたり、伝える活動のアドバイスや評価をしてもらったりする場を計4回設定し、継続したかかわりができるようにした。これにより、ゲストティーチャーとのかかわりから生まれた考え方の広がり、より課題意識を高める姿、町づくりに取り組む姿勢への共感、一緒に頑張りたいという思いなどが見られた。

① GTさんお話しありがとうございました。子供がみんな笑顔で一生懸命に頑張ることが伝わりました。そのため、和音がイディオムをやる時、笑顔で一生懸命して私もそのかかわりも聞いている人があつたので。

② 仕事を聞かれたのは私達も観光の方と一緒に一回だけですが、聞こうからすごい事なんだと思えてもらえるように、みんな一生懸命ミッションをがんばりたいです。

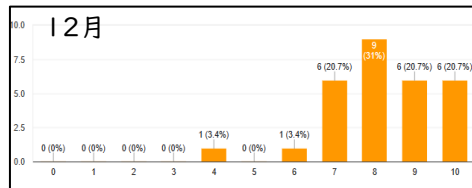
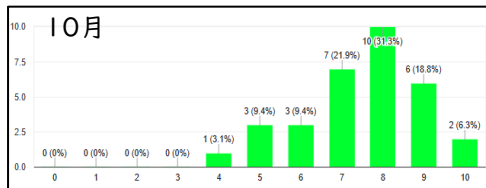
③ 国は、人見知りで最初は声をかける自信がなかったけど、オーストラリアから来てくれた人にフレンドリーと優しく聞いてくれて自信がきました。人と話すことでハルマ。

④ かり、人の温かさにかわきました。特に、アメリカの人が英語を優しく教えてくれたとても嬉しかったです。もっと道後の知識をふやしてきて、道後でフレンドリーしたいです。

もう一つは観光客とのつながりである。道後の魅力や現状を観光客に伝える活動を行い評価してもらうことで、相手を尊重しながら話そうとする姿や、人とつながることのよさを実感している姿が見られた。

また、単元前後に子どもに行ったアンケートを比較すると、「道後を自分の町だと思う」と答えた子どもが増え、少しずつ道後の町への愛着や地域の一員としての自覚が高まってきたことが分かった。

【道後のまちについて、どのくらい「自分の町」だと感じますか？（0…全く思わない、10…とても思う）】



・本学習で変容を促すESDの価値観（世代間の公正、人権・文化を尊重する）

「道後の今—道後温泉改修工事ストーリー」を伝える活動では、130年前に道後温泉本館

が改修されたことを始め、様々な歴史や伝統、先人の働きなどを調べた。

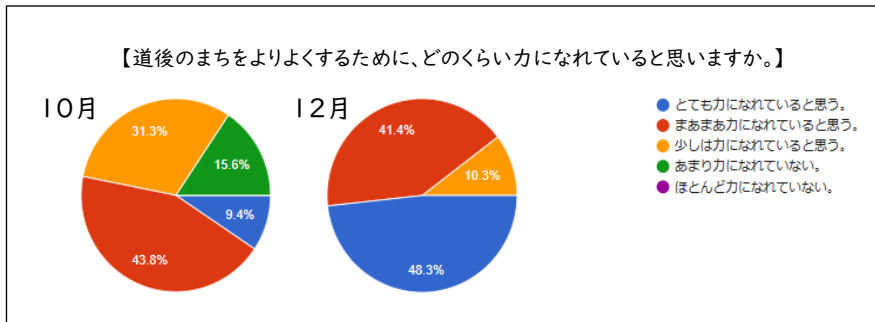
ぼくは道後にたいする気持ちが変わりました。最初は新しい方がいいと道後にはあまり行かないが、たけとそれも歴史があつていいなと思つことも増えました。

たので自分達で「やりた川」という気持ちをもって観光客の方々に道後の今を一生けん命伝えて道後の今を受けついでいきたいです。さきくにたえ

これまで知らなかったそれらのことが今につながっていることを実感した子どもたちは、道後の町への見方が変わったり、より一層大切にしたいという思いや自分たちも受け継いでいきたいという思いが高まったりと変容が見られた。

ふり返り、観光客の人達に話さなかつたら、残念と思つて、人達が涙山いたと思つて、再度訪れる人達が涙山増えたら、いいなと思つて、自分でも、観光客の人達にも、道後、て大切だと思つて、

また、単元前後に子どもに行ったアンケートを比較すると、「道後の町をよりよくするために、力になれていると思う」と答えた子どもが増え、主体的に地域



域のよさや伝統文化を広めたり受け継いだりしようという意識が高まっていることが分かった。

一方で、課題も見えてきた。地域のゲストティーチャー3名に学習に参加していただいたが、さらに多くの方、様々な立場の方と広くかかわることができれば、たくさんの人たちが連携し合って魅力ある町づくりに取り組んでいることをより深く実感できるのではないだろうか。そうすれば、自分もそこに参画していきたいという思いもさらに強くなると考える。「ESDとの関連」が子どもの姿としてよりよく見られるような、ゲストティーチャーとの効果的なかわり方を考えていきたい。

また、評価においては育てたいESDの資質・能力の視点を示したポジションシートを取り入れた。これを継続し、蓄積していくことで、子どもの資質・能力の獲得や変容について長期的な目で見取ることができるだろう。記述での自己分析も併せて行えば、より具体的な姿を評価でき、また子どもも自己の成長や変容を自覚することができる。単元の中でいつ、どのくらい評価するのか明確にして取り入れていきたい。

